

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■令和4年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・木造住宅の長寿命化に資する外壁内の乾燥性能評価に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・住宅性能表示制度の断熱等級に対応した仕様について、大学および関係機関から情報を収集し、対象とする外壁の各種の断面構成について協議の上策定する。さらに、実大の木造住宅実験棟の外壁を用いて、技術資料および実験結果に適合する仕様を採用して実験を実施し、研究結果をとりまとめ、順次、公表する予定としている。
- ・仕様の調査・整理は、既に今年度の基礎研究経費重点配分（FS型）「実大木造実験棟を利用した外皮内の乾燥性能の評価に関する研究」により実施しており、さらに、本研究に適用される基礎的な防水仕様による実験データを収集し、留意の上、検討を進める。
- ・従来型、付加断熱および防耐火被覆の仕様選定にあたっては、市場での普及状況を鑑みるとともに、耐久性上においても安全側の評価となるよう、実験方法、評価方法などについて検討する予定である。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・省CO₂に資するコンクリート系新材料の建築物への適用のための評価指標に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・経年劣化の評価について本研究の中だけでは検討しきれない部分についても、長期的な視点で性能評価の仕組みや方法について検討して参りたい。
- ・材料の特性だけでなく、設計・施工管理等も含めて総合的に判断できるような仕組みにも留意して研究を進めて参りたい。
- ・例えば、対象とする材料の地下躯体への適用など、材料適用の段階的な拡大も見据えて、得られた成果は順次公表して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・既存マンションにおける省エネ性能向上のための改修効果の定量化に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・コストの検討に関しては、管理組合へのヒアリング調査だけでなく、区分所有者に対しても断熱改修効果への理解や意識、コスト感について調査を行う。
- ・管理組合の運営体制・運営能力によって、意思決定のプロセスが大きく異なる可能性を踏まえ、管理組合に対する調査では、運営体制・運営能力等に関するヒアリング等を行う。

・省エネ改修効果については、共用部に限らず、専有部も検討の対象とし、健康維持・増進等の間接的な効果や省CO₂化に伴う社会への貢献等についても留意し検討する。
その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・人流ビッグデータを活用した建物用途規制の運用支援技術の開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・携帯電話GPSデータのユーザーバイアス等の特性を踏まえ、複数の人流ビッグデータ、実測値、統計値等も組み合わせた補正・検証方法等を検討する。
- ・交通面の審査マニュアルの作成にあたっては、用途地域と立地施設の種類の組み合わせによって影響度合いが異なることを十分に踏まえて検討を行う。
- ・用途地域における立地規制の特例許可の審査以外での援用可能性も視野に入れながら検討を進める。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・事前防災対策による安全な市街地形成のための避難困難性評価手法に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・避難速度に関する検討に際しては、避難者の様々な属性の整理や避難行動に関する知見を持つ有識者との連携に留意しながら検討を進める。
- ・シミュレーションによる検討に際しては、これまでに作成されている避難計画等における知見や課題を反映させるとともに、客観性をもった評価が可能となるよう留意しながら検討を進める。
- ・シミュレーション結果から移転の必要性を示すことにとどまらず、避難を円滑化するための効果的な市街地整備等にも活用できるよう留意しながら検討を進める。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和4年度 第2回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・施設の維持管理及び行政事務データの管理効率化に係る調査研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、本研究の効果を早期に発現させるため、本省及び各地方整備局と連携し排水機場へ本研究成果の導入を推進するとともに、計測作業の自動化を排水機場のシステム全体へ展開するため、現在計測できていない点検項目に対するセンサの適用及び取得データによる良否判定手法について研究を進めて参りたい。また、本研究で得られた知見を他のインフラ施設へ展開するため、国ならびに地方公共団体における施設管理担当者への説明など計測作業の自動化の普及に資する取り組みを進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和4年度 第3回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・生産性向上のための空港コンクリート構造物の標準規格化に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・空港コンクリート構造物の標準規格化の検討にあたっては、航空機荷重等の空港の特性に加え、運搬や吊り上げ等の施工性を考慮した最適な断面形状を検討する。
- ・空港コンクリート構造物の BIM/CIM 標準モデルの作成にあたっては、道路や港湾などの先行事例を参考とし、効率的に実施する。
- ・標準規格化及びプレキャスト化に伴う生産性向上効果を検証するため、設計、施工、維持管理・更新ごとの効果の計測方法を検討する。計測方法の検討にあたっては、災害復旧時における施工の迅速性や、二酸化炭素排出量の抑制効果などの付加価値を含めて検討する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。